

●大腸がん検診を受けましょう

男女ともに40歳以上は年に1回、大腸がん検診を受けましょう。

○大腸がん検診の方法

大腸がん検診の方法として「効果がある」と判定されている検査は「便潜血検査」「全大腸内視鏡検査」です。がん検診の中でも効果が最も良くわかっている検診です。

○便潜血検査

がんやポリープなどの大腸の病気があると、大腸内に出血することがあります。この検査はその血液を検出する検査です。便潜血検査が陽性になった場合には、その原因を明らかにするために、精密検査を受ける必要があります。

病変から常に出血しているとは限りませんので、陽性になった場合に、精密検査の変わりにと「便潜血検査」を再度行うことは意味がありません。きちんと精密検査を受けることが大切です。

○大腸がん検診の精密検査

「便潜血検査」では、約8.3パーセントの人が「精密検査が必要」という判定を受けています。この場合、必ず精密検査を受けることが求められます。精密検査の方法は何種類かありますが、「全大腸内視鏡検査」が基本です。

▼全大腸内視鏡検査

精密検査として第一に推奨される方法です。内視鏡を挿入し直腸から盲腸までの大腸の全部を撮影し、がんやポリープなどの病気がないかを確認します。必要に応じて大腸の粘膜を採る検査をすることがあります。採取した細胞は、悪性かどうかを病理学的に診断します。

検査の準備として、鎮痙剤（大腸の動きを抑える薬）や鎮痛剤の注射が必要です。全大腸内視鏡検査は大腸の中の小さな病変を見つけることが可能ですが、注射によるショックや、内視鏡の操作によっては出血や穿孔（大腸の粘膜に穴をあけてしまうこと）といった医療事故の危険がまれにあります。検査を受ける前には、担当医から検査の準備や内容について十分に説明を受けてください。

●大腸がん検診の結果をうけて、次回の検診は？

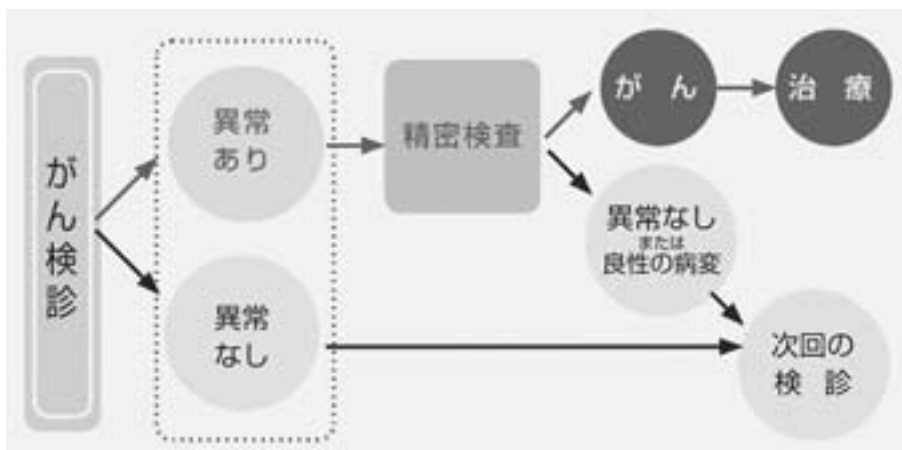
▼異常なしの場合

40歳以上の方は、年1回「便潜血検査」による大腸がん検診を受けましょう。

▼精密検査でがん以外の病気が指摘された場合

治療が必要か、経過観察が必要かを担当医と相談してください。治療や経過観察が必要な場合には次回のがん検診は不要ですが、担当医の指示に従って必要な検査や治療を受けてください。

○検診のながれ



▼問

保健センター
☎ 62・5110



店内のようす

交流館まほらの向かいにお店があります。創業75年になりました。手作りで無添加のパンは創業当時から変わっていません。食の安全が問われる中、安心して食べていただけます。お店には野菜がたくさん入った調理パン、菓子パン、手作りケーキなどが豊富にあります。



(有)松葉屋パン店
☎ 62-2256

うつくしま健康応援
店のご紹介⑧